

《第2章》

基本構想

(平成28年度～平成37年度)

- 1 将来像
- 2 基本方針
- 3 基本目標



～第2章～ 基本構想（平成28年度～平成37年度）

1 将来像

《将来像》

ひと・まち・自然 ^{つむ} みんなで紡ぐ さつま町

2 基本方針



～ 竹から連想されるイメージ ～

- ☆伸びる（町が成長する、人が増えていく）⇒ **まちの発展**
- ☆つながる（竹の根っこのように、地中（見えない所）でつながっている）⇒ **共生・協働**
- ☆紡ぎあう（地域の魅力ある豊富な資源を活用し、人の手で紡ぎあう）⇒ **あるものを活かす**

～ みんなで紡ぐ ～

「ひと」ふれあい、「まち」にぎわい、「自然」うるおい、キラリとかがやくさつま町を目指して、「みんなで紡ぐ」協働のまちづくりを進めます。

《まちづくりの姿勢》

語らいで育む

連携と役割を担うまち

少子高齢化・過疎化の進行にともない、集落機能や活力の低下など、地域コミュニティをめぐる様々な問題を克服するために、産・官・学・金・労・言など多様な主体がそれぞれの役割のもとに連携し、積極的に語らいを深めることで、共生・協働によるまちを育みます。また、これらの実現のため、将来にわたる財政の健全化を図り、効果的・効率的な行政運営を進めます。

3 基本目標

～基本方針Ⅰ～

『ひと』ふれあう

交流、連携、協働など、人と人がお互いのつながりの中でふれあい、子どもから高齢者まで、誰もが、いつまでも、自分らしく、安心して生活できるまちを目指します。

《基本目標1》

まちぐるみで育む、
子どもの笑顔が輝くまち

未来にはばたくさつまの子どもたちが、様々な世代の人々と交流や遊び、社会参加などを通して、豊かな心とふるさとさつまに対する郷土愛を育みながら、健やかに育っていけるよう子ども・子育てを支援します。

《基本目標2》

希望に満ちて、生涯を
いきいきと暮らせるまち

町民が、個々の夢や目標の実現に向けて、充実したライフスタイルを確立できるよう、健康づくりをはじめとする自助の取り組みと共助の支えあいにより、生涯をいきいきと暮らせる環境づくりを進めます。

《基本目標3》

ともに認めあい
支えあうまち

コミュニティ活動やボランティア・NPO活動、多文化共生の取り組みなどを通じて、お互いを理解し、尊重し合いながら、一人ひとりが地域の中で主体的に参画し、支え合うことのできるまちづくりを進めます。

《基本目標4》

安全・安心の輪を
広げるまち

過去の災害の教訓をもとに、大規模災害への備えを進め、いざというときに助け合える地域のネットワークづくりを進めながら、まちぐるみで防災・防犯に取り組む主体的な意識や体制を強化します。

～基本方針Ⅱ～

『まち』にぎわう

悠久の歴史と個性ある地域が育んできた豊かな生活文化を守るとともに、これらの個性や人材を活かしながら地域活動や産業活動を促進し、まちの活力を創出します。

《基本目標5》

価値ある資源が
活かされるまち

自然や歴史・文化などを活かした集客・交流・観光拠点のネットワーク化を図るとともに、既存の資源と産・官・学などの知的資源との融合による商工業の再生と6次産業化などを推進し、活力と魅力に満ちたまちを創出します。

《基本目標6》

さつま学の推進による
人間性豊かなまち

先人たちが受け継いできた伝統的な文化と新たな発想・感性による文化が出会い、互いに生きがいを持って知的風土を高め合いながら、学びの成果を地域社会に活かすことのできる仕組みづくりを進めます。

《基本目標7》

みんなに優しく
魅力あふれるまち

町民も来訪者もすべての人々が、日常的生活や広域的な交流を便利で快適なものにするとともに、安全で豊かさを実感できるよう「住む、働く、集う、憩う」ことの利便性を高める取り組みを進めます。

～基本方針Ⅲ～

『自然』 うるおう

紫尾山や川内川などの豊かな自然との共生を図るとともに、その恵みを享受できる取組みを進めます。

《基本目標8》

豊かな自然を守り、
水と緑に癒されるまち

紫尾山や川内川などかけがえのないふるさとの自然を、積極的に守り育てていくために、まちぐるみの取り組みにより、保全・再生・活用しながら次世代に継承します。

《基本目標9》

ふるさともを見直し、
資源を大切にすまち

わたしたち一人ひとりが地球環境を担う一員として自覚し、地域ぐるみで具体的な行動を興し、美しい景観を保ちながら、環境に配慮した資源循環の仕組みづくりを進めます。